

令和5年度 第1回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

- ◆ 日 時 令和5年5月19日（金）10：00～11：30
- ◆ 会 場 横須賀総合高等学校 4階会議室
- ◆ 出席者
 - 座長 森 昭夫 (鴨居小学校校長)
 - 副座長 前島 光 (坂本中学校校長)
 - 運営委員 米持 正伸 (横須賀総合高等学校校長)
 - 〃 山田 伊久男 (荻野小学校校長)
 - 〃 松山 雅彦 (北下浦中学校校長)
 - 〃 鈴木 史洋 (教育指導課長)
 - 教育研究所職員 梅谷 尚子 (教育研究所長)
 - 〃 矢本 歩 (教育情報担当課長)
 - 〃 白井 宏一 (主査指導主事)
 - 〃 田山 雅也 (主査指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 伊東 誠司 (主査指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 新谷 美紀 (主査指導主事：ICT活用進担当)
 - 〃 濱田 広治 (係長：管理運営係)
 - 〃 三ツ堀 幸正 (主査：ICT環境整備担当)
 - 〃 浅見 浩 (指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 鈴木 徹也 (指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 伊藤 学 (指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 渡邊 雅人 (指導主事：ICT活用進担当)
 - 〃 岸上 哲大 (指導主事：ICT活用進担当)

- ◆ 傍聴者 1名

- ◆ 次 第 (司会：教育研究所 主査指導主事 白井、記録：会計年度職員 棚橋)

1. 開会
2. 所長・担当課長挨拶
3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
4. 座長、副座長選出
5. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領改正案審議
6. 議事進行上の確認事項
傍聴者確認

7. 議事：令和5年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - ① 令和5年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要・・・(梅谷・矢本)
 - ② 研修・調査研究担当事業について・・・・・・・・・・・・(田山・白井)
 - ③ 管理運営係事業について・・・・・・・・・・・・(濱田)
 - ④ ICT活用推進担当事業について・・・・・・・・・・・・(新谷)
 - ⑤ ICT環境整備担当事業について・・・・・・・・・・・・(三ツ堀)
8. 連絡
 - ① 議事録の確認依頼
 - ② 次回日程他
9. 閉会

[資料]

1. 教育研究所条例
2. 教育研究所運営に関する懇話会設置要綱
3. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領(対照表、現行、改正案)
4. 令和5年度 教育研究所「要覧」
5. 令和5年度 予算概要
6. 令和4年度 成果と課題

◆ 議事録

1. 開会（進行：主査指導主事 白井）
2. 教育研究所長・教育情報担当課長挨拶
3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介（進行：白井）
4. 座長、副座長選出（座長：森昭夫校長、副座長：前島光校長）
5. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領改正案審議（進行：森座長）
6. 議事進行上の確認事項（進行：森座長）
 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
 傍聴者1名
7. 議事：令和5年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - ① 令和5年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要 梅谷・矢本
 - ② 研修・調査研究担当事業について 田山・白井
 - ③ 管理運営係事業について 濱田

- ④ ICT 活用推進担当事業について 新谷
- ⑤ ICT 環境整備担当事業について 三ツ堀
- ⑥ 質問・意見等

8. 連絡

- ① 議事録の確認依頼 白井
- ② 次回日程 白井

9. 閉会（進行：白井）

(0 : 49 : 47)

森座長：ご説明ありがとうございました。これより質疑応答に入ります。ご質問またご意見等ある方いらっしゃいましたら挙手またはリアクションボタンをお願いいたします。無いようですので意見はございませんでしょうか。前島先生お願いいたします。

前島校長：質問です。11 ページの4番、市内及び他機関との連携による研究及び資料収集のところなのですが、この(4)の横浜国立大学教職大学院との連携、みなし専任教員として授業を実施するというのは、具体的にどのようなことでしょうか。教えて下さい。

森座長：はい。ありがとうございます。では担当の方ご回答をお願いします。

田山主査：よろしく申し上げます。横浜国立大学教職大学院との連携といたしまして、教育研究所から1名、みなし専任教員として横浜国立大学教職大学院で授業を行っています。本年度は私田山が派遣されて、今、週に1回横浜国立大学教職大学院で講義のほうをサポートさせていただいたり、実際に講義をさせていただいたりしております。そのなかで国大の先生方と、教授の先生方とも連携をしながら、また研修等の進め方であったり、新しい分野の知識であったりというところを教わったりしながらそれをまた研修に活かしていく、といった連携をしています。

森座長：田山先生が授業をされる、そんなイメージですか？

田山主査：主にはT2というような形がイメージが近いかなと思います。ただ私がT1となって講義をするといった時もあります。

森座長：はい。ありがとうございます。前島先生いかがでしょうか。

前島校長：ありがとうございました。ここの項目ではないかもしれませんが、逆に横浜国立大学の大学院生が市内の小・中学校に教員として授業をしていただくというシステムという関係は、ここの課ではないかもしれませんが、そういった実現の可能性はありますか。

森座長：はい。田山先生お願いします。

田山主査：大学院の生徒が、ということでよろしいでしょうか。

前島校長：既に教員免許を持っている大学院生が、学校へ臨時で来ていただくというシステムというのは大学院のほうで考えていますか。情報としてあれば教えて欲しいのですが。

田山主査：今情報としては、大学院・教職大学院に行かせていただいている、今現在としてそういった話はありません。ただ教職大学院の生徒が学校のボランティアといえますか、学校支援スタッフみたいな形として学校に行かせていただいたり、教育実習でお世話になったりといったやり取りは聞いております。

前島校長：ありがとうございました。

森座長：あの本校に今、2年目の教員が同じように大学院へ行って教員免許を持っていた

のだけど、その時附属小学校で非常勤講師として働いていたということもあったので、いずれ前島校長がおっしゃった流れがあったら教えて下さい。

田山主査：承知いたしました。またそのあたりは教職員課との確認かなと思いますので、連携をして情報を集めておきます。

森座長：はい。他にご質問ご意見いかがでしょうか。はい。米持先生お願いします。

米持校長：それではお願いします。意見を2点述べさせていただきます。研修の振返りについてです。研修を受けた方がその振返りをメールで、多分電子データになると思うのですが、それを研究所が本人に送るというようなお話がありました。この研修を受けた方が、どのような振返りを行ったかということについては、本人、研究所、それから学校の管理職等だけでなく、一緒に受講した受講者が、他の受講者がどのような振返りをしているのかという事を共有できるようにするべきではないかなと考えております。その理由としては、同じ講座を受けた他の受講者が、自分とは違う考えや自分とは違う受け取り方をしている事も研修を受けた人にとっては大きな学びになると思います。という事から考えて、講座を受けた方々全ての振返りの内容を電子データで受講者が閲覧できると大変いいのではないかなと思っております。これが1点目です。2点目ですが、理科についてです。一昨年前から、研究所の専門職員の方が学校を回って理科室の薬品の点検を行っていただいていると思います。これは大変いい取組であり、学校にとっても、とてもありがたい取組だと思っております。普段理科室の準備室や薬品庫はそれに係る教員しか見る事はありません。そういう閉ざされた部分を、その学校以外の人が、しかも専門的に知識を持っている方に見ていただいてアドバイスを受けるという事は、非常に有意義な事だと思います。更にその後の事故防止にもつながりますし、ひいては学校のためになる、そういう取組だと思っています。ぜひ継続と発展を考えていただきたいと思います。以上です。

森座長：はい。米持先生ありがとうございました。今の意見を受けまして何か担当の方、補足意見ありますでしょうか。

田山主査：研修・調査研究担当の田山です。ご意見いただきましてありがとうございます。振返りにつきまして他の受講者との共有というところでは、研究所として考えていかなければと思っております。これまで初任者研修、例えば初任者研修であればグループ代表者の振返り授業などを次の初任者研修の時に模造紙で振返ったものを教育研究所の第1研修室の壁に貼るなどして、他のグループがどのように振返ったかというのを共有できるような事をしていたのですが、それが他の研修においても、他の受講者がどのように研修を受けたかというところで、共有できる何らかの方法を考えていかなければいけないなと感じました。それについては今後の検討とさせていただきます。ご意見どうもありがとうございました。理科の部分に関しましては白井に代わります。

白井主査：理科担当の白井です。ご意見ありがとうございました。本年度も担当としまして各学校の理科室訪問という事で10校程度の学校を予定しております。先ほどありましたように、やはり理科室の環境に関しましては常時点検をしていかないとなかなか担当が1年毎に変わる小学校の現場では引継ぎがされていない状況というのが垣間見られますので、これからもこの事業のほうの継続をしていきたいと考えております。ご意見ありがとうございました。

森座長：はい。補足説明等いただきました。米持校長いかがでしょうか。

米持校長：ありがとうございました。

森座長：はい。他に質問ご意見等ございましたら、挙手またはアクションボタンをお願いします。いかがでしょうか。はい。では最後に、構成員の皆さんから今後の研究所事業について一言ずつご意見ご感想をいただければと思います。今ご質問をいただいたのですが、また今後の研究所の事業についての事ですので、改めましてご発言いただければと思います。では構成員の方々の名簿順に指名させていただきます。私は最後にいたします。では中学校校長会前島校長先生からお願いいたします。

前島校長：はい。ご説明いただきありがとうございました。研修についても非常に内容が充実していて、非常に有意義なものになるなと感じました。ビデオなどで視聴できれば日程が合わない人たちにとっては、録画等が可能ならばそんな機会があるといいのかなと思いました。それからICTのGIGAスクールのChrombookの事については、今ですね非常に故障した場合の修理費が高つくという事でその対策をどうしていこうかという事を校長会でも検討して皆さんで考えているところですので、またご相談させていただきたい事があるかと思っておりますので、その時はご支援いただければなと思います。ありがとうございました。

森座長：続きまして、総合高校校長の米持校長お願いいたします。

米持校長：はい。ただいま意見を言わせていただいた部分がありましたけど、その他で申し上げますと、やはり教育研究所には研修そしてICTそして様々な資料の収集、そして発信といった機能があると思います。研修のところは前島校長もおっしゃいましたが、大変多岐に渡る研修の内容を少ないスタッフのなかで非常に頑張っていると思っています。本当にありがとうございます。横須賀総合高校は横須賀で唯一の市立高校で、これまで新規採用教員というのが採用できなかったのですが、令和3年度から少しずつ新規採用教員が採用できるようになってまいりました。これは県教育委員会との連携を、新倉教育長をはじめ教育委員会のスタッフの皆さんがつけていただいたという事によるものなのですが、本年度におきましては、4名おりましたまた新規の教員研修という事を学校のなかでどういうふうにOJTを組んでいくかという事が課題になっております。引き続き教育研究所の研修のスタッフの皆さんにご支援をいただきました

いと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

森座長：はい。ありがとうございました。では続きまして小学校教育研究会会長荻野小学校山田校長先生お願いします。

山田校長：(マイク不調の為メッセージで) ①米持校長がおっしゃった感想を共有できるという事は、児童と同様に学びが深まる事につながると思います。②たくさんの素晴らしい研修がありますが、特に好評だったものをアーカイブ化して、後日別の人達も視聴できるといいのではないかと思います。③Chrombookの今年の取組はととてもありがたいです。今日は遅れて参加、そしてこの状態失礼しました。

森座長：北下浦中学校の松山先生お願いします。

松山校長：北下浦中学校の松山でございます。昨年もこの日に、県の技術家庭科の総会がありまして、今年も総会と重なってしまいまして、今私は綾瀬の方に来ている状況です。綾瀬の楽屋からの中継です。私の方からは4点ほど話をさせて下さい。まず1つ目は研修の形式についてです。いろいろなタイプの研修があろうかと思うのですが、このようにコロナの状況が変わってきている中で、ぜひ対面の良さを活かした研修を積み上げていただきたいと思っております。この何年間か対面するという事についてのハードルが学校は高くなってきている気がします。先日の教科総会の中でも集合でやる事に対するいろいろな反応があったという事は肌で感じているところです。そういう中で研修というのは、自分の学びに帰るものがあるというところが一つ大きいポイントだと思いますので、対面の良さというのが生きるような研修を組んでいく事がなにより大事だと思いますので、様々な研修を組み立てる際にお考えをいただければと思っております。同じく、研修に関しては私が一番強く感じているのは、それぞれの先生方が自分の困り感を解消するためにどの研修を選んでいったらいいのかというところ、これは今県の方で進んでいる研修履歴の収集と関係がある事かと思いますが、自分のニーズに合う研修を見つけられるかどうか、というところが大きいところだと思っております。どうしても忙しい教員ですから、夏場とか休み時間の研修というところが中心にはなろうかと思うのですが、そういう中で自分の研修のニーズがどこにあるかという事を自分で把握できない教員もいるというところを感じるところがあります。そういった点で研修のコンテンツ化というか、コンテンツを少し細分化して、こういうニーズがある場合はこういう研修がお勧めですよ、そういった内容が提供してもらえるといいなと思っておりますので、検討をお願いします。3つ目は実現できるか分かりませんが、かつて私が関わっていた事業の中で、予算がないからというところで大分先細りになってきてしまったものがあって、それは県でやっていた授業研究ライブラリという事業です。こういう事業の限定的な復活なども考えていただけると嬉しいなと思っております。私自身も前年度なかなか対面での授業研究を見に行く事がなかったのです

が、その中で唯一見に行った小学校の授業がものすごく素晴らしくて、これを多くの先生に見てもらいたいと思いました。そういったものが構築化されるというのは、横須賀の財産になることだと思いますので、なかなか予算も限られていることだと思いますし、まずライブラリとして蓄積する事の課題点もあるという事は重々承知していますが、限定的にでも少し検討していただければと思っております。最後4点目ですが、教育情報に係る CBT 及びインポータルの活用についてというところです。この部分については、もしかすると何かの形で教員の働き方改革にも大きく影響していくものがあるかなと思います。先生方のニーズをぜひ収集していただいてどんな事がこのインポータルを使ってできるのか、あるいは CBT のシステムを使ってできるのかというところをぜひ教員達に知らせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

森座長：最後に私小学校校長会としてお話をさせていただきたいと思います。本年度の研究所の研修で私様々今までお話ししていたインクルーシブとか多様性他者との共生についての教員の意識が若干低めであるとお伝えするなかで、本年度の研修については年次研でそこを多く取り上げていただいて非常に感謝しております。神奈川県が推進している教育方針ですので、ぜひその推進にご協力していただければと思います。先ほど話がありました ICT の推進につきましては、小学校でも課題になっておまして、本年度小学校校長会組織に ICT 活用推進の特別委員会が設置されています。そこをぜひ連携させていただいて、小学校でも ICT を推進していくような働きかけを校長会としてもしてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。あと2つあります。臨時的任用職員の研修についてです。来ていただいて授業を見ていただく、様々なご助言をいただくという事はしているのですが、本年度も臨時的任用職員が本校3名4名おまして、校外研修の参加の仕方について、初めて臨時的任用職員になったものについては全部受けるように、ただ2回目3回目については自分で選ぶような形になっていたのですが、やはり臨時的任用職員の方々の資質向上についても、年次研と同じように臨時的任用職員を2年目3年目経験したけど5年目にはもうちょっと研修を受けるとか、経験年数に応じた出欠を工夫していただけたらなと思っております。もしかしたら教職員課との連携かと思っておりますので、そのあたりをお願いいたします。最後は小学校ならではの課題なのですが、3年生4年生は比較的初任者が担任をする事が多く、社会科の授業を進めるうえで教科書を元に学習を進めてしまう教員がいる中で、おそらくその学校ならではの地域教材ですとか神奈川県教育とかそういったものをしなくてはいけないのですが、題材として教科書には北九州市のごみ問題が載っていて、それで授業を進めようとする教員が少なからずいます。ですので、理科では、それぞれの地域に地層がこ

ここにあるとか岩石がこんなところにあって見られるとかそういった紹介とかあると思うのですが、小学校の社会科、特に3年生4年生の地域学習についてもある程度、研究会から思うのですがこの学校ではこのような実践をしているとか、先ほど松山先生がおっしゃったデジタル的なものでまとめてあると、初任の人もここを見るところの学校の地域学習ができると伝えていけるのかなど。なかなかOJTが少なくなってきましたので、検討をしていただけると助かります。私からは以上です。

白井主査：鈴木課長からもお話しいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

鈴木課長：はい。まず研修等については初任研中心に教育指導課も共同で企画や講師をしておりますので、そこも連携して市内の教員の人材育成には関わっていくのかなと思っております。それからもう一点、ICT教育については教育情報課担当のほうで様々な情報整備・環境整備していただいていますけど、それらの効果的な活用はソフト面では私たちも推進していきたいと思っていますので、今後も連携を密にしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

森座長：鈴木課長ありがとうございました。司会を白井主査に戻します。